

第65回日本産科婦人科学会学術講演会

シンポジウム3 (生殖・内分泌、女性ヘルスケア)

多嚢胞性卵巣症候群(PCOS)の病因・病態と管理

2013年5月12日(日) 8:30~11:30

第1会場：ホテルさっぽろ芸文館 1階 ニトリ文化ホール

座長 苛原 稔 (徳島大学教授)、北脇 城 (京都府立医科大学教授)



岩瀬 明 (名古屋大学准教授)

多嚢胞性卵巣症候群病態解明に向けた総合戦略

1995年名古屋大学卒業、2001年コーネル大学メディカルカレッジ

ひと言 卵巣に関する基礎・臨床研究を、ゴナドトロピン分泌制御まで拡大して行っております。ヒト卵胞の完全体外培養、新規排卵誘発薬の開発を目指しています。



松崎 利也 (徳島大学准教授)

インスリン抵抗性を持つ多嚢胞性卵巣症候群患者の診断とメトホルミン療法の適応の検討

1988年徳島大学卒業、1995年徳島大学大学院修了、2000年Massachusetts General Hospital

ひと言 ゴナドトロピン分泌調節機構、排卵障害の機序について研究しています。研究成果から新しい排卵誘発の開発を目指しています。



馬場 剛 (札幌医科大学講師)

多嚢胞性卵巣症候群とアンドロゲン—疾患モデルが意味するもの—

1996年札幌医科大学卒業、2001年札幌医科大学大学院修了

ひと言 PCOSの病態解明のため、SNP解析など臨床検体を用いた実験や動物実験など多面的に研究をしています。



福原 理恵 (弘前大学助教)

指定発言：多嚢胞性卵巣症候群に対する卵巣多孔術

2001年弘前大学卒業、2007年弘前大学大学院修了

ひと言 指定発言として卵巣多孔術の成績、またその長期予後について発表させていただきます。



倉林 工 (新潟市民病院部長)

幼少期の高アンドロゲン環境とインスリン抵抗性からみたPCOSの病因および管理に関する検討

1985年新潟大学卒業、1995年豪州Garvan研究所、2004年新潟市民病院

ひと言 女性の生涯の健康管理を目標にした医療体制の構築を目指しています。趣味はジョギング、旅行、良い汗をかくこと。